

2021.11.5

心を豊かにする音楽科

< 第8回講座 >

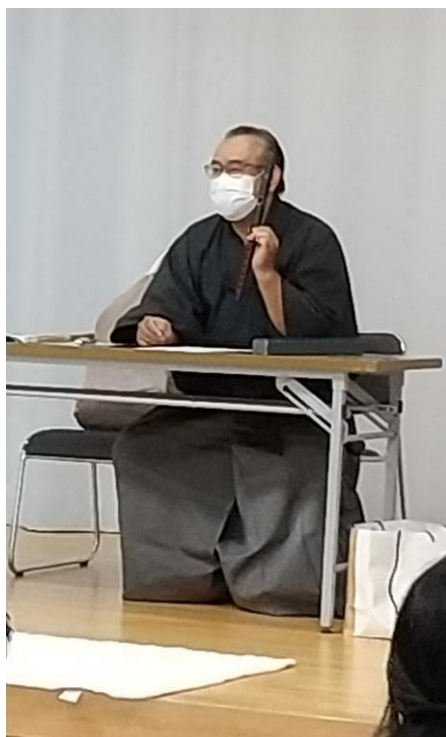
- *日時 : 2021年11月5日(金) 9:50~12:15
- *テーマ : 「能の謡とお囃子~幽玄の世界へ」
- *講師 : 水田 雄悟氏 (能楽師 観世流シテ方)

能楽は、室町時代、足利義満(3代将軍)の支援のもと「猿楽」からはじまり700年続く舞台芸術で、今では5つの流派があり、2018年ユネスコの「世界無形文化遺産」に登録されています。

又、能楽師には下記のような役割分担があり、専門の役のみ担当されます。

- ① シテ方 (舞・面をつける)
- ② ワキ方 (シテの演技を引き出す役 面はつけない)
- ③ 地謡 (歌)
- ④ お囃子方 (笛 小鼓 大鼓 太鼓)
- ⑤ 後見人 (シテ方が不測の事態時の代役)

狂言(笑いを通して人間を描いている)についても同じ舞台で交互に演じられます。





後半は、楽器の紹介と「道成寺」の裏話を聴き、不老長寿の謡「高砂」にふしをつけ全員で謡いました。能面の展示もあり、先生の熱弁で講義時間も延長になりましたが、能の世界について一歩近づき心が豊かになり終わりました。

次回の講座では、受講生全員で謡やお囃子を鳴らせたなら楽しいとの先生のご意向でした。私達も楽しみにしています。



高砂

神楽の打切
 高砂や、こゝ浦舟に帆をあげて。
 こゝ浦舟に帆をあげて。月もろ
 ともに出けの。波乃淡路乃
 鳥影や、遠く鳴尾の仲過ぎを
 はや佐吉に、着きにけりは、や
 佐吉に、着きにけり。